

どれが**本物の** 聖書なのか？

Which Version is the Bible?

フロイド・N・ジョーンズ博士著

エターナル・ライフ・ミニストリーズ 発行
www.eternal-lm.com 〒734-8691 広島市宇品郵便局私書箱 20 号



- 第一章 **すり替えられた聖書本文！** / 写本によって圧倒的に支持されている正統派本文(T R) / 「高等批評」と「下等批評」/ ギリシャ語の正統派本文を回復させたエラスムス
 - 第二章 **ウェストコットとホートの正体** / 二人の聖書改ざん者の「表」と「裏」/ ウェストコットとホートの心霊術との関わり / エラスムスについて / ニュー・アメリカン・スタンダード版聖書(N A S V)の創始者の悔恨
 - 第三章 **新約聖書の正統派本文** / ルターが正統派本文をドイツ語に翻訳する / ティンダルが正統派本文を英語に翻訳する / キング・ジェームズ版聖書の歴史
 - 第四章 **1881年の聖書本文「すり替え」事件！** / 現代の改ざん聖書出現の背景と原因 / 1881年の聖書「改訂」を操った人々 / 秘密の契約によって委員会を支配したホート
 - 第五章 **オリゲネス…偽聖書を作り出した宗教的哲学者** / オリゲネス…問題の根源の人物 / オリゲネスの信念
 - 第六章 **エウセビウスが作った五十冊の「偽聖書」** / ローマ皇帝コンスタンティヌス / ニケア会議 / コンスタンティンがエウセビウスに依頼して作らせた五十冊の「聖書」 / ローマ・カトリックが行ってきた「異端審問」/ ヒエロニムスとラテン語ウルガタ聖書 / バチカン写本とシナイ写本
 - 第七章 **現代の改ざん聖書とネストレ版本文** / 現在も続いている「学者たちとイエス様との闘い」/ ネストレのギリシャ語本文 / 正典 / アポクリファ (外典)
 - 第八章 **第一世紀から始まっていた聖書の改ざん** / 古いものほど良いものか？ / 異端がはびこっていたエジプト
 - 第九章 **聖書の正統派本文の歴史** / 使徒ヨハネ～弟子ポリュカルポス～ガイウス / 第一世紀の新約聖書写本！ / 正統派本文 (Textus Receptus) を支持している古代の翻訳聖書 / ワルドー派の聖書 / ローマ帝国の東西分裂後の聖書 / 結ばれた実は何か？
 - 第十章 **神が保存してこられた聖書** / 最初の「手書きの聖書原文」と「保存」/ 聖書に関する神ご自身の約束 / 新約聖書の本文の摂理的保存について / 聖書を保存された神の方法
 - 第十一章 **羊に変装している狼たち** / 狼たちが神のこぼを荒らし始めた時 / 小さなパン種に用心しなさい / 霊的に理解できること
 - 第十二章 **神学校に及んだ腐敗と破壊！** / 神学校の学生たちの信仰を破壊してきたもの / プリンストン神学校 / 保守派の神学校への波及 / 敗北を認める現代の学者たち / 人為的な偽造であった「本文タイプの分類」/ 知性の目が開かれるように！
- 《 聖書の信頼性の危機 》 **ウィルバー・N・ピッカリング博士**
繰り返しコピーされてきた聖書の原文 / 神によって保存されてきた聖書の正統派本文 / 退けられてきた「改ざん」本文 / どちらが「神のこぼ」なのか？ / 疑似的本文のまがい

ネストレ版の聖書は改ざんされています！！

●聖書を「改ざん」した人々

検察庁の検事による「改ざん」事件がありました。事件の証拠品であるフロッピーディスクの内容を、検事が自分たちの主張が通るように「意図的に改ざん」したというものでした。

「改ざん（改竄）」という語の意味を調べると、辞書には、「文書の字句などを書き直してしまうこと。普通、悪用する場合にいう」と記されています。

検察庁の検事は、悪を摘発するのが仕事であり、正義の味方であるはずですが、彼は、だれも見ていないところで密かにデータを「書き直し」、「悪用」したのです。ただし、神は見ておられました。

本書は、この「意図的な改ざん」が神のことばである聖書に対して行われてきたこと、そしてそういう「改ざん版聖書」が存在することを明らかにしています。

聖書は、はっきりとこう言っています。

「私はこの書の預言のことばを聞くすべての者に証しする。もしだれかが、これらのことに付け加えるなら、神はこの書に書かれている災いを彼の上に付け加えられる。

また、もしだれかが、この預言の書のことばから取り除くなら、神は命の書から、また聖なる都から、またこの書に書かれているものから、その人の分を取り除かれる」（黙示録 22・18、19）

フロイド・ジョーンズ博士は、こう述べています。

「初代のクリスチャンたちは、『神のことばに付け加えたり、それから削除したり、それを改ざんしたりする者の上には、呪いが生じる』と神が四度も警告しておられることを知っていました（申命記 4・2、箴言 30・5、6、詩篇 12・6、7、黙示録 22・18、19）。

信者であるなら、聖書を意図的に改ざんすることは決してしないはずですが、これらの箇所のみことばが告げている「呪い」を信じているはずだからです。真の本文を意図的に変えようしたのは、それらの警告を信じない「冒涇者」だけであったはずですが」（どれが本物の聖書なのか？）

本書からわかるのは、そういう「聖書改ざん者たち」が、歴史上に多くいたことです。

●1881年の「聖書本文すり替え事件」！

聖書の正統派本文（Textus Receptus テクストゥス・レセプトゥス）が確立された宗教改革の時代以降、プロテスタント教会ではキング・ジェームズ版聖書を代表とする正統派本文の聖書（新約聖書）が使われていました（詳細は「正統派本文とは？」「どれが本物の聖書なのか？」を参照）。

ところが、ある「事件」をきっかけに、「根本的に異なるギリシャ語本文」が登場し、改ざんされた疑似聖書が作られていきました。

フロイド・N・ジョーンズ博士はこう記しています。

「1881年、英国国教会の一部の人々が、英語欽定訳聖書（キング・ジェームズ版）を改訂することを決めました。この翻訳聖書の土台となっていたギリシャ語新約聖書は、聡明な学者であるデシデリウス・エラスムス（1446年～1536年）による長年の研究によるものでした。キング・ジェームズ版聖書で満足していた英国国教会の北部主教区は、改訂版を望んではいませんでした。けれども、南部の主教区は変更することをよしとして、単独で事を進めました。

ヘブル語およびギリシャ語の学者たちから成る委員会が選出され、廃語や古代語を変えて、言語を最新のものにする任務が彼らに与えられました。南部の主教区は、聖書の原語の本文については、それまでのもので満足していたので、大きな改訂を意図していたわけではありませんでした。変更はどれも、重要度の小さいものだけとなるはずでした。

ところが、その委員会が行ったことは、それではありませんでした。その委員たちは、英国国教会が与えていた指示に反して事を進めたのです。彼らは、単に英語という言語を改善するのではなく、根本的に異なるギリシャ語本文（原文）を作り出し、非常に異質の新約聖書を作り出したのです！

彼らは、キング・ジェームズ版聖書の土台となっているギリシャ語本文（Textus Receptus 正統派本文）を用いることさえしませんでした。キング・ジェームズ版聖書の土台となっているギリシャ語写本は、価値のないものとして排除されました。しかし、まさにその写本こそ、キング・ジェームズ版聖書より前の英語聖書（大聖書、ビショップ聖書、マシュー聖書、ジュネーブ聖書など）の土台ともなっていたものでした。

その委員会は、そうして全く異なる「聖書」を作り出したのです。このことは、キリスト教界の中で、ほとんど知られていない事実であり、嚴重に保護されてきた秘密の一つなのです。これらの出来事について知っている人々、信徒、あるいは牧師は、ごくわずかです。

もし私たちの手元にキング・ジェームズ版聖書以外の聖書があるとすれば、それは、キング・ジェームズ版聖書を産み出すために用いられた「原文」（正統派の原文）とは「別の原文」に基づいているということを理解しなければなりません。

その委員会が作り出したものには「改訂版聖書」という誤解を招く名前が付けられましたが、それは本当は「改訂版」ではありませんでした。その委員会は原文のギリシャ語を改ざんし、代わりに、根本的に異なるギリシャ語本文を使ったのです。すなわち、約5337箇所を改ざんしたのです。

ただし、このことに気付いている人は、ほとんどいません！ ……」(同書 第一章「すり替えられた聖書本文」より)

●ネストレ版の聖書が土台としている「改ざん」本文！

1881年の「聖書本文すり替え事件」とともに登場したウェストコットとホートの「改ざん聖書本文」に基づき、ネストレ版（およびUBS版）の数々の聖書が作り出されています！

「ウェストコットとホート作成のギリシャ語新約聖書に基づく、エバハルト・ネストレの聖書本文（あるいは、アーラント＝ネストレ版の本文、あるいはUBSの第三版。いずれも、ネストレの本文に基づいており、それとほぼ同一である）…それは、正統派本文（Textus Receptus）

と比較すると、一節につき約四つの改ざんを含んでいます。…

エバハルト・ネストレのギリシャ語本文には、ギリシャ語の正統派本文 (Textus Receptus) と比べると、新約聖書で36191の改ざん箇所があります。…

さらに、ギリシャ語の正統派本文 (Textus Receptus) には、140521語がありますが、ウェストコットとホートの本文は、5788の箇所です。これは、9970語のギリシャ語であり、新約聖書だけでも7パーセントに相当します。さらに、その9970語の中の2886語は、神が息を吹き込まれたみことばであるのに、削除されてしまっているのです！ ……」(同書 第七章「現代の改ざん聖書とネストレ版本文」より)

新約聖書の改ざんに関わりがあるのは、オリゲネス、エウセビウス、そしてウェストコットとホートたちです。

- (1) オリゲネスが最初の「改ざん版聖書」を作り、
- (2) エウセビウスがそれを基にして50冊の聖書を作り、
- (3) ウェストコットとホートがそれを基にして「聖書本文」を作り、
- (4) それから「ネストレ版」聖書本文が作られ、
- (5) それから「改ざん版」の「疑似」聖書が作られています。

●聖書改ざん者たちの正体！

このような聖書「改ざん」を行った彼らは、どう
いう人物だったのでしょうか？

●聖書改ざんの根源…オリゲネス！

聖書改ざんの根源となった人物は、オリゲネスで
す。

彼は「表向き」は「初期キリスト教の教父」で
すが、実際は、「アダム」が存在したことも、「人
間の堕落」も信じてなく、「前世からの生まれ変
わり」を信じる、エジプト生まれの宗教的ギリシャ
哲学者でした。(詳細は、第五章を参照)。

著者フロイド・ジョーンズ博士はこう述べてい
ます。

「オリゲネスの信念の多くが、ローマ・カトリッ
クおよびエホバの証人の教えと一致していること
がわかってくるはずですが(いずれも、「クリスチャ
ン」という名目のカルトです) …」



オリゲネス

エジプト生まれのグノーシス派の傾向を備えた
「宗教的ギリシャ哲学者」。

オリゲネスは広範囲に旅をし、どこでもギリ
シャ語の新約聖書を見つけると、それを彼の教理
にぴったり合うように改ざんした。

彼は、『前世からの生まれ変わり』を信じ、「人
は罪のない者となるために、煉獄れんごくに行かなければ
ならない」と信じた。

オリゲネスの信念の多くは、ローマ・カトリッ
クおよび『エホバの証人』の教えと一致している。

エウセビウスは、**異端のアリウス派**であり、「オリゲネスこそ最も偉大な人物だと考えて」いた人物でした。彼は、「宗教心はあっても新しく生まれ変わってはいない一人の人間であり、また、**アリウスの友人**でもありました」（第六章）

●**ウェストコットとホートの正体！**

ウェストコットとホートが実際にどういう人物であったかを知ったら、敬虔なみなさんは驚くはずですよ。

二人とも、聖書の一つ一つの語が**神のことば**であるとは信じてなく、聖書の原文が**神の靈感による**ものであったことすら信じてなく、**イエス・キリストの神性とあがないを否定し、ダーウィンの進化論**を受け入れていました。

二人とも、『**幽霊クラブ**』（とウェストコットの息子が呼ぶもの）を発足させ、それに所属していました。この組織の中でウェストコットは指導的な役割をになっていました。

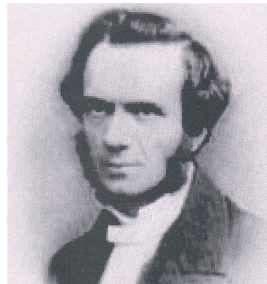
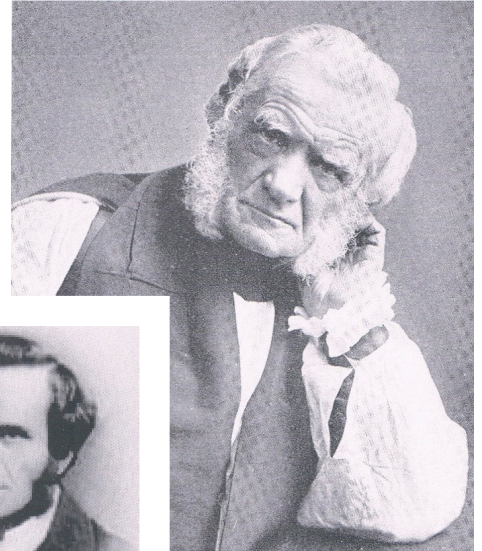
ホートは、「ウェストコット…および私は、**幽霊**およびあらゆる超自然的現象を調べるための組織を発足させました。趣旨は、すべてを明らかにして、そのようなものが本当に存在することを信じるようにすることです。それらのものは、偽物や単なる主観的錯覚とは区別されるべきです」と言いました。（このようなものは**心靈術**であり、聖書により完全に禁じられています）

ウェストコットは、**聖母マリア崇拝者**であり、**人間の墮落**を否定し、聖書の**奇跡**の記述を疑いました。「ウェストコットの息子は、彼の父が「**聖徒たち（実際は悪霊ども）**」と**交信している**ことについて書き記しました。特に、**ペテルブルグの大聖堂（ロシア）**については、「**そこには（悪霊どもが）大ぜいいた**」と記しました。

（[アーサー・ウェストコット（息子）著『B・F・ウェストコット（父）の生活と手紙』第一巻）

その同じページで、彼は、彼の父が、**オークランド城（イギリス）**にあるチャペルのことを話した際、そのチャペルは「**（悪霊が）満ちて**」いて、彼は**暗闇の中で**「**ひとりぼっちではなかった**」と言ったことを書き記しました。もちろん、**彼が交信していたのは悪霊どもでしたが**、彼はそれらを**幽霊**（かつて生きていた人々のたましい）だと思っていたのです…」（第二章参照）

ホートは、「**純粋にローマ・カトリック**的見解のほうが、福音主義的な見解よりも真理に近い」と言い、「自分は**ギリシャ哲学**のほうが好きである」と書きました。



B.F. ウェストコット

（1825年～1901年）

表向きには、「聖職者」「大学教授」であったが、裏では、『**幽霊クラブ**』を設立して**心靈術**に関わり、**オークランド城（イギリス）**や**ペテルブルグの大聖堂（ロシア）**に出かけて行き、「**暗闇の中**」で悪霊と「**交信**」していた。

聖書を「**神のことば**」とも、「**神の靈感**」によるものとも信じてなく、**イエス・キリストの「神性」**も「**あがない**」も否定した。



F.J.A. ホート (1828年～1892年)

表向きには、「聖職者」「大学教授」であったが、裏では、『幽霊クラブ』を設立して心霊術に関わった。以前はウェストコットの弟子でもあった。

聖書を「神のことば」とも、「神の靈感」によるものとも信じてなく、イエス・キリストの「神性」も「あがない」も否定した。

弁舌が伝説となるほどの説得力を持っており、『無敵の弁護士』にもなったであろうと言われた。

彼は、「モーリス氏は23年間にわたり、私の親友です。私は彼の数々の著書から大きな影響を受けてきました」と言いました。

そのモーリスとは、ユニテリアン派(キリストを神と認めない一神教)の人物であり、「聖書の靈感」を低く評価していました。

彼は、「私の関心を最も引いたのは、ダーウィンの本でした。この進化論は、論駁することのできないものであると思います」と言いました。

●髪を切られたサムソンたち！

ジョーンズ博士は、神のことばに対するこのサタンの働きについて、こう述べています。

「これは、若くて未熟な学生の信仰を荒廃させてしまうものです。彼は、キング・ジェームズ版聖書などの正統派本文の聖書は、神の忠実なことばではないと教えられ、最初の原文だけが真実で、正確で、権威のあるみことばであると教えられ、そしてさらに、旧約聖書も新約聖書も最初の原文は全く存在しないと知らされるのです。

そういう教師たちによって、神のことばに対する学生たちの信仰は骨抜きにされてきたのです。

確信をもって、『主はこう言われる』とみことばを引用することのできない神の人は、『髪を刈られたサムソン』のようで、すでにペリシテ人たちから思うままにされてきた自分に、まだ気付いていないのです。

若者たちが神のために心を燃やして授業に臨んでも、神のことばを軽んじる一人のギリシャ語教師により、聖書に対する学生たちの信仰が破壊されてしまうのです」

非常に残念なことに、かつては「神のために心を燃やして」いたクリスチャンたち（本来なら、大いなる力をもって神のわざを次々と大きく現していくはずであった『サムソン』たち）が、「信仰を骨抜き」にされ、「髪を切られたサムソン」にされているのです！

●神が保ってこられた真の聖書！

そういう「改ざん聖書本文」の流れがある一方、神はご自分の真の「聖書」を保ってこられました。神はそのことをみことばの中で約束され、歴史の中でそれを果たしてこられたのです。（「どれが本物の聖書なのか？」第十章参照）

マルコの福音書の最後に、こう書かれています。

「主は、彼らに語られた後、天へ取り上げられ、神の右にお座りになり、その者たちは、出て行ってあらゆる所で宣べ伝えた。主は、ともに働かれ、伴う数々のしるしを通して、みことばを確か

なものとされた」(マルコ 16・20)

神は、『**宗教的ギリシャ哲学者**』や『**異端のアリウス派**』や『**悪霊どもとの交信者**』たちが「**改ざん**」した「ことば」を通して、大いなる栄光を現してくださるのでしょうか？

そうではなく、**真の神のことば**をクリスチャンたちが大胆に宣べ伝える時、神は、みわざを現してくださることでしょう。

(本書「**どれが本物の聖書なのか？**」の詳細は→ www.eternal-lm.com をご覧ください)

◎ホームページから、

● 《 **本当の聖書** 》 ↓
www.eternal-lm.com/ss/seisho.html

● 《 **正統派本文とは？** 》 ↓
www.eternal-lm.com/ss/textusreceptus.html

のページもご覧ください。

◎おすすめします！ 正統派聖書シリーズ

● 「**改ざん聖書の改ざん箇所**」(フロイド・N・ジョーンズ著 本書続編)
「**聖書の年代記述の驚異**」(フィリップ・マウロ著)
「**ダニエルの七十週の預言**」(フィリップ・マウロ著)

《 聖書の歴史の二つの流れ 》

(改ざん聖書本文の流れ)

新約聖書の時代から存在した聖書改ざん者たち
マルキオン(異端グノーシス派)による聖書の改ざん 140年頃

アキラ(降霊術者 80年~135年頃)による旧約聖書の改ざん

タティアヌスによる聖書の改ざん(2世紀)

無名の四人の改ざん者たち(175~200年頃)

アフリカの書記者たちの改ざん(3世紀以前)

■ **オリゲネス**の「ヘクサプラ」245年



■ **エウセビウス**の50冊の「改ざん聖書」331年
(シナイ写本・バチカン写本)



■ **ヒエロニムス**「ラテン語ウルガタ聖書」405年
(ローマ・カトリックの聖書)



(ローマ・カトリックの異端審問 1229年~1834年)

ウィリアム・ティンダル (1494年~1536年)

敬虔な若きイギリス人聖職者であったティンダルは、オクスフォード大学を後にし、ケンブリッジ大学でエラスムスのもとでギリシャ語を学んだ。

エラスムスのギリシャ語本文の第三版(1522年)に基づき、1526年、英語

で印刷された最初の完全な新約聖書をもたらした。

ローマ・カトリックによる迫害を受け、聖書を翻訳して発行したという「異端」の罪で絞め殺され、体を焼かれた。



ドゥエ・リームズ聖書 1610年

■ **ウェストコットとホート**の本文 1881年
改訂版聖書 RV (Revised Version) 1895年



■ **ネストレ / アーラント / UBS** 版本文



The Moffatt Bible (1935), RSV (1952), Amplified Bible (1958-64), Jerusalem Bible (1966), NIV (1966), NASV (1971), New Jerusalem Bible (1985), New King James Version (1984), ...
文語訳(大正改訳) 1917年

(正統派 新約聖書本文

Textus Receptus (TR) の流れ)

手書きの原本(新約:紀元50年~95年頃)

● 古代のギリシャ語写本(99%がTRと一致)

● マグダレン写本(66年 TRと一致)

● 古ラテン語聖書(150年頃 TRと一致)

● 古シリア語聖書(150年頃 TRと一致)

● ワルド一派の聖書(TRと一致)

● 教父たちによる引用

● 聖句集(400年頃~ 100%がTRと一致)

(初代)

(宗教改革)

● **エラスムス**による「ギリシャ語新約聖書」(TR)

1516年「第三版」1522年

● **ルター**の「ドイツ語新約聖書」(TR準拠)

1522年

● **ティンダル**の「英語新約聖書」(TR準拠)

1526年

● 「カバデーレ訳聖書」(TR準拠) 1535年

● 「マシュー訳聖書」(TR準拠) 1537年

● 「大聖書」(TR準拠) 1539年

● **ステファヌス**による「ギリシャ語新約聖書」

(TR) 1550年

● 「ジュネーブ聖書」(TR準拠) 1560年

● 「ビショップ聖書」(TR準拠) 1568年

● **ベザ**による「ギリシャ語新約聖書」(TR)

1598年

● 「キング・ジェームズ版聖書」(TR準拠)

1611年

● **エルセビル兄弟**による「ギリシャ語新約聖書」

(TR) 1624年「第二版」1633年

● 「文語訳(明治元訳)新約聖書」(TR準拠

1880年)

● 「新契約聖書」(TR準拠 永井直治氏訳

森溪川師発行文語体 1960年)

● 「正統派新約聖書」(TR準拠 2013年)

(現代)